

しちくほうかつ

発行 京都市紫竹地域包括支援センター TEL 495-6638

発行日 2014年 1月 5日

内 容

- ・認知症かもと思ったら、どうしたらいいの………1・2
- ・家族の立場から――認知症家族の会………3
- ・北区地域介護予防推進センター事業のお知らせ ……3
- ・ここにこの人あり 地域の世話役さん登場 ……4・5
- ・居宅支援事業所の取組 事例検討会………6
- ・サービス事業所の取り組み………7
- ・職員紹介「今年のわたしの一文字」………8

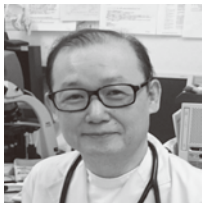
特集 「認知症かも？と思ったら、どうしたらいいのかな？」

「認知症かも？と思ったら、どうしたらいいのかな？」と悩むことも多いと思いますが、安心して受診していただくために、①かかりつけ医 ②サポート医 ③認知症疾患センターについて①～③の先生方に紹介していただきました。ア、①～③の役割・機能について イ、どんな時に受診するのか？ ウ、①～③のネットワークと関係性等について

認知症かも？と思ったらどうしたらいいの？ 「認知症かかりつけ医」の役割

白波瀬医院 白波瀬功

「物忘れがあるのではないかなと思うけれど、どの先生に相談したら良いのか？」と悩まれている方は多いのではないかと思います。そんな時かかりつけ医がいらっしゃる方はまずはかかりつけ医にご相談ください。



地域における「認知症かかりつけ医」の役割は、すべての診療所にあると考えています。医師は研修医として2年間病院で学び、内科、外科などの専門分野を担当してゆきます。患者さんは、複数の疾患があっても、一つの体です。

最近、総合診療医ドクターGというテレビ番組があったりもします。総合的な視点が、専門性の根底に存在いたします。

私の場合、消化器外科の教室で研修医として学びました。胃癌などの術前管理には、消化管を空虚にして術中のトラブルを最小限にすることが大事です。しかし、糖尿病や高血圧症などの持病(基礎疾患)に対する、絶食輸液管理など、総合医としての基礎をまず学びました。

術前術後管理の中で学びましたことは、体質のケアの重要性と、患者さんの人生哲学に親身に寄り添うことでした。現在の医師としての立ち位置にはいろいろ違いがあるように見えます。病院勤務医であったり診療所勤務であったり、標榜科がちがったりもいたします。

しかし、根底には学生時代に学んだことや、研修医時代を含めて経験したことには、総合医としての共通点があると思います。地域の開業医には総合医としての役割もありますので、物忘れに関する事も「かかりつけ医」にまずはご相談ください。

どんな症状(認知症)の時に受診すればいいのかと問われましたときにこう考えます。「以前の様子とちょっと違うなあ」と誰かが感じた時です。具体的には、物忘れ・身体症状

(表情や行動の変化)・昼夜逆転や日内変化・性格の変化などです。

かかりつけの診療所で診察をさせて頂き、神経内科や精神科などの専門医の診察が必要だと思われる方には専門医を紹介させて頂きます。病院などの専門医では、心理テストや画像診断(MRI, 脳血流検査等)で確定診断をされ、結果をかかりつけ医に返却してくれます。かかりつけ医の診察で介護保険サービスが必要だと思われる方には、地域包括支援センターやケアマネさんに介護の相談をしたりもしています。

物忘れが進行してしまってからではなく、「いままでとちょっと違う」と言う時にかかりつけ医にご相談いただくことで、その方やご家族の今後の生活が穏やかに過ごせるような支援をしていきたいと思っています。

* 北区では、「物忘れかかりつけ医」のリストを医師会で作成し北区役所のホームページに掲載しています。

「認知症サポート医」の役割

医療法人社団 田村外科
理事長 田村耕一



みなさんこんにちは。みなさんは認知症サポート医という言葉をご存知でしょうか。現在、認知症高齢者が462万人、予備軍400万人(京都新聞2013年6月2日)といわれる高齢社会においてその認知症対策が緊急の課題とされております。

平成17年の調査で約60%が高齢者のみの世帯であることがわかり、今後この比率は徐々に増加することが推測され、その結果独居の認知症高齢者、いわゆる老老介護や、認認介護の増加が考えられ、地域や家庭状況を熟知した、かかりつけ医に期待される役割はますます大きくなると考えられました。

そこで厚労省は平成17年から認知症サポート医を養成し、かかりつけ医の認知症診療を支援する制度、「認知症サポート医制度」を開始しました。